

2009 年(平成 21 年)感染症発生動向調査結果

一患者情報一

2009年(平成21年)感染症発生動向調査事業 報告週対応表

1月							
週	月	火	水	木	金	土	日
1				1	2	3	4
2	5	6	7	8	9	10	11
3	12	13	14	15	16	17	18
4	19	20	21	22	23	24	25
5	26	27	28	29	30	31	

7月							
週	月	火	水	木	金	土	日
27			1	2	3	4	5
28	6	7	8	9	10	11	12
29	13	14	15	16	17	18	19
30	20	21	22	23	24	25	26
31	27	28	29	30	31		

2月							
週	月	火	水	木	金	土	日
5							1
6	2	3	4	5	6	7	8
7	9	10	11	12	13	14	15
8	16	17	18	19	20	21	22
9	23	24	25	26	27	28	

8月							
週	月	火	水	木	金	土	日
31						1	2
32	3	4	5	6	7	8	9
33	10	11	12	13	14	15	16
34	17	18	19	20	21	22	23
35	24	25	26	27	28	29	30
36	31						

3月							
週	月	火	水	木	金	土	日
9							1
10	2	3	4	5	6	7	8
11	9	10	11	12	13	14	15
12	16	17	18	19	20	21	22
13	23	24	25	26	27	28	29
14	30	31					

9月							
週	月	火	水	木	金	土	日
36		1	2	3	4	5	6
37	7	8	9	10	11	12	13
38	14	15	16	17	18	19	20
39	21	22	23	24	25	26	27
40	28	29	30				

4月							
週	月	火	水	木	金	土	日
14			1	2	3	4	5
15	6	7	8	9	10	11	12
16	13	14	15	16	17	18	19
17	20	21	22	23	24	25	26
18	27	28	29	30			

10月							
週	月	火	水	木	金	土	日
40				1	2	3	4
41	5	6	7	8	9	10	11
42	12	13	14	15	16	17	18
43	19	20	21	22	23	24	25
44	26	27	28	29	30	31	

5月							
週	月	火	水	木	金	土	日
18					1	2	3
19	4	5	6	7	8	9	10
20	11	12	13	14	15	16	17
21	18	19	20	21	22	23	24
22	25	26	27	28	29	30	31

11月							
週	月	火	水	木	金	土	日
44							1
45	2	3	4	5	6	7	8
46	9	10	11	12	13	14	15
47	16	17	18	19	20	21	22
48	23	24	25	26	27	28	29
49	30						

6月							
週	月	火	水	木	金	土	日
23	1	2	3	4	5	6	7
24	8	9	10	11	12	13	14
25	15	16	17	18	19	20	21
26	22	23	24	25	26	27	28
27	29	30					

12月							
週	月	火	水	木	金	土	日
49		1	2	3	4	5	6
50	7	8	9	10	11	12	13
51	14	15	16	17	18	19	20
52	21	22	23	24	25	26	27
53	28	29	30	31			

「愛媛県感染症情報」発行日

2009年(平成21年)感染症発生動向調査結果 - 患者情報 -

1 全数把握対象 一～五類感染症及び新型インフルエンザ等感染症

感染経路、感染原因、感染地域については、確定あるいは推定として届出票に記載されていたものを示す。

(1) 一類感染症

一類感染症 7 疾患(エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱)の届出はなかった。

(2) 二類感染症

結核

結核は 280 人の届出があり、病型は、患者 237 人、無症状病原体保有者(潜在性結核感染症) 42 人、感染症死亡者 1 人であった。性別は、男性 135 人、女性 145 人で、年齢区分は 10 歳未満 12 人、10 歳代 1 人、20 歳代 19 人、30 歳代 17 人、40 歳代 23 人、50 歳代 29 人、60 歳代 38 人、70 歳代 55 人、80 歳代以上 86 人であった。感染経路は、飛沫・飛沫核感染が 192 人、その他が 88 人であった。感染地域は、国内が 278 人、国外(フィリピン)が 2 人であった。

なお、結核の動向については、結核登録者情報システムでの集計を基に、別章に掲載した(参照:本事業報告書 2009年(平成21年)結核登録者情報)。

その他 4 疾患(急性灰白髄炎、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群(病原体がコロナウイルス属 SARS コロナウイルスであるものに限る)、鳥インフルエンザ(H5N1))の届出はなかった。

(3) 三類感染症

細菌性赤痢

細菌性赤痢は、1 事例 2 人(患者 1 人、無症状病原体保有者 1 人)の届出があり、検出された菌型はソンネ菌であった。20 歳代と 40 歳代の男性で、海外渡航先(中国)における経口感染であった。

届出日	届出週	性別	年齢別	症状	菌型	感染地域
9月 29日	40	男	20歳代	有	ソンネ	中華人民共和国
10月 3日	40	男	40歳代	無		

腸管出血性大腸菌感染症

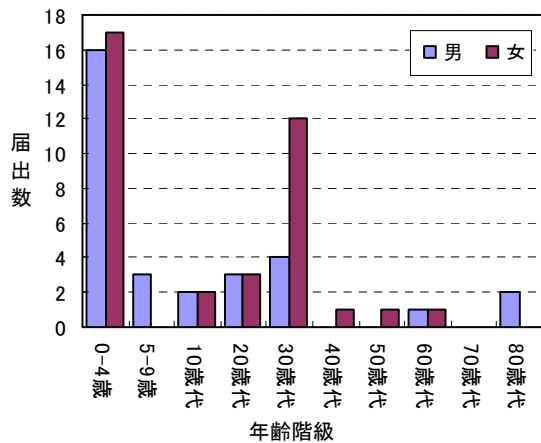
腸管出血性大腸菌感染症は 18 事例 68 人（患者 37 人、無症状病原体保有者 31 人）の届出があった。性別は男性 31 人、女性 37 人で、年齢は、10 歳未満が 36 人（乳幼児 34 人、小学生 2 人）、10 歳代 4 人（小学生 1 人、中学生 2 人を含む）、20 歳代 6 人、30 歳代 16 人、40 歳代 1 人、50 歳代 1 人、60 歳代 2 人、80 歳代 2 人であり、10 歳未満が全体の 52.9%を、30 歳代が 23.5%を占めた。血清型（Vero 毒素）は、O26 47 人（VT1）、O157 14 人（VT1・VT2 9 人、VT2 4 人、毒素型不明 1 人）、O103 4 人（VT1）、O1 1 人（VT1）、O91 1 人（VT1）、O121 1 人（VT2）であった。溶血性尿毒症症候群（HUS）発症例は、1 人（10 歳代）の報告があったが、重篤化することなく軽快した。感染地域は全て県内で、感染経路は経口感染 13 人、接触感染 45 人、その他（不明を含む）10 人であった。集団発生事例としては、西条保健所管内の保育施設に関連した O26VT1 による集団発生事例（表中 事例 2 関連届出 46 人）、飲食チェーン店に関連した複数の都府県におよぶ O157VT1・VT2 広域散発事例（表中 事例 13 関連届出 1 人）があった。

事例番号	届出月日	届出週	発生地 (患者住所地)	年齢別	性別	症状	血清型	ベロ毒素
1	2月 27日	9	松山市	30歳代	女	有	O157	VT1・VT2
2	5月28日～ 6月8日	22～ 24	新居浜市内 保育施設 (集団発生)	10歳未満(乳幼児) 29例	男 21例 女 25例	有 18例 無 28例	O26	VT1
				10歳代(中学生) 1例				
				20歳代 5例				
				30歳代 9例				
				40歳代 1例				
				60歳代 1例				
3	6月 10日	24	新居浜市	10歳未満(乳幼児)	男	有	O1	VT1
4	6月 22日	26	松山市	10歳未満(小学生)	男	有	O103	VT1
5	7月 3日	27	松山市	10歳未満(乳幼児)	女	有	O157	VT2
	7月 7日	28		10歳未満(乳幼児)	男	有		
6	7月 9日	28	松山市	80歳代	男	有	O157	VT2
7	7月 9日	28	松山市	50歳代	女	有	O157	VT2
8	7月 9日	28	今治市	80歳代	男	有	O157	VT1・VT2
9	7月 17日	29	今治市	10歳代(小学生)	男	有	O26	VT1
10	7月 31日	31	松山市	10歳未満(乳幼児)	女	有	O103	VT1
	8月 5日	32		30歳代	女	有		
	8月 5日	32		30歳代	男	無		
11	8月 3日	32	大洲市	30歳代	女	有	O157	VT1・VT2
12	8月 18日	34	新居浜市	10歳未満(乳幼児)	男	有	O157	VT1・VT2
	8月 21日	34	四国中央市	60歳代	女	無		
13	9月 2日	36	松前町	10歳未満(小学生)	男	有	O157	VT1・VT2
14	9月 5日	36	東温市	30歳代	女	無	O91	VT1
15	9月 18日	38	今治市	20歳代	男	有	O121	VT2
16	10月 2日	40	西条市	30歳代	女	有	O157	VT1・VT2
17	10月 21日	43	松山市	10歳代(中学生)	女	有	O157	毒素型不明
	10月 24日	43		30歳代	女	有		VT1・VT2
18	11月 2日	45	松山市	10歳代	女	有	O157	VT1・VT2

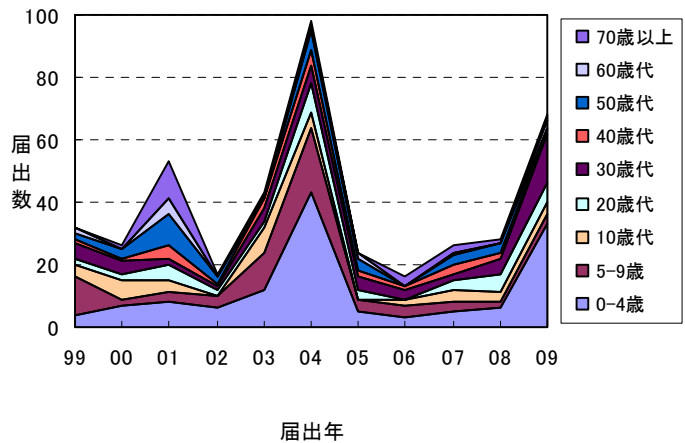
事例 2 内訳

	年齢	症状(人数)		計
		有	無	
園児	10歳未満(乳幼児)	18	10	28
施設職員	30歳代		2	2
	40歳代		1	1
家族	10歳未満(乳幼児)		1	1
	10歳代(中学生)		1	1
	20歳代		5	5
	30歳代		7	7
	60歳代		1	1
計		18	28	46

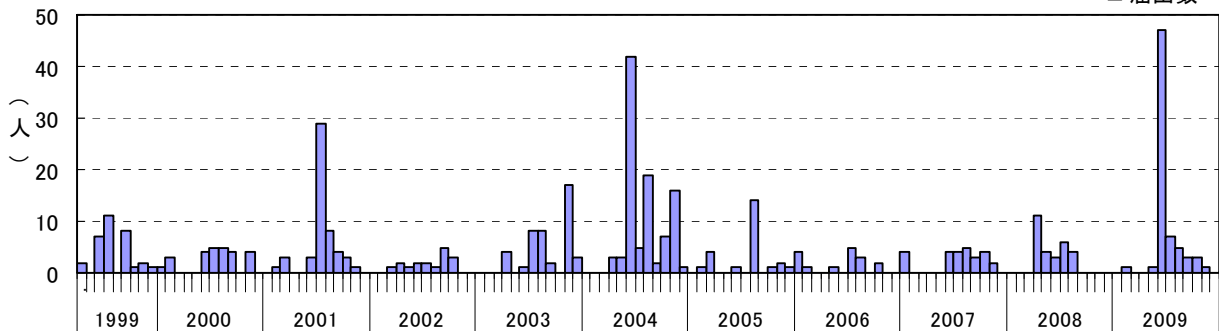
年齢階級・性別患者数(2009年)



年齢階級別患者数(年推移)



腸管出血性大腸菌感染症 届出数(月推移)



その他 3 疾患 (コレラ、腸チフス、パラチフス) の届出はなかった。

(4) 四類感染症

A 型肝炎

A 型肝炎は、10 歳未満（幼児）女性 1 人の届出があった。感染地域は県内、感染経路は不明であった。

届出日	届出週	届出保健所	性別	年齢	症状	感染地域	感染経路
4月 9日	15	松山市	女	10歳未満 (幼児)	発熱、食欲不振、黄疸、 肝腫大、肝機能異常	県内	不明

つつが虫病

つつが虫病は、70 歳代の女性 1 人の届出があった。感染地域は県内（松山市）であった。ツツガムシによる刺し口は確認されなかった。

届出日	届出週	届出保健所	性別	年齢	症状	感染地域	感染経路
12月 22日	52	松山市	女	70歳代	発熱、発疹	県内 (松山市)	動物・蚊・昆虫等 からの感染

日本紅斑熱

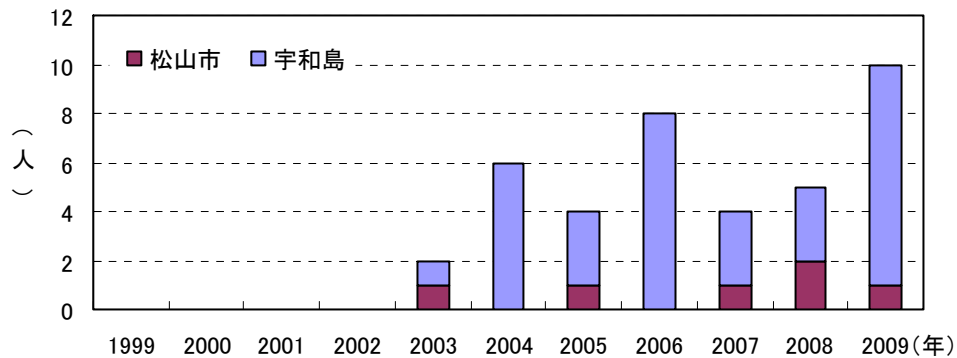
日本紅斑熱は、10 人の届出があり、性別は、男性 4 人、女性 6 人で、年齢は 20 歳代 1 人、50 歳代 3 人、60 歳代 2 人、70 歳代 4 人であった。届出保健所は松山市保健所管内 2 人、宇和島保健所管内 8 人であった。感染地域は全て県内で、全例でダニ（マダニ）による刺し口が確認された。

本疾患は 2003 年 8 月に県内で初めて患者が中予で届出されて以降、2003 年 2 人、2004 年 6 人、2005 年 4 人、2006 年 8 人、2007 年 4 人、2008 年 5 人と毎年届出されており、2009 年はこれまでで最も多い 10 人の届出があった。

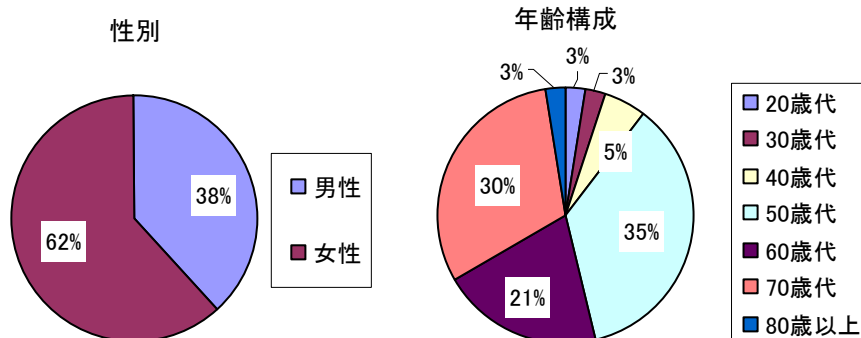
2003 年以降届出された患者 39 人のうち、性別は女性が 61.5%（24 人）、年齢は 50 歳以上の壮高年者が 89.7%（35 人）を占めている。また、患者の届出は宇和島保健所管内と松山市保健所管内に限局されており、特に宇和島保健所管内からの届出が 82.1%（32 人）を占めている。

届出日	届出週	届出保健所	性別	年齢	症状	感染地域	感染経路
5月 28日	22	宇和島	男	70歳代	発熱、刺し口、発疹、肝機能異常	宇和島市	マダニ
8月 7日	32	宇和島	男	20歳代	発熱、刺し口、発疹	宇和島市	マダニ
10月 26日	44	松山市	女	70歳代	発熱、刺し口、発疹、肝機能異常	松山市	動物・蚊・昆虫等からの感染
11月 9日	46	宇和島	女	50歳代	発熱、刺し口、発疹	宇和島市	マダニ
11月 9日	46	宇和島	男	50歳代	刺し口、発疹、肝機能異常	宇和島市	マダニ
11月 9日	46	宇和島	女	60歳代	発熱、刺し口、発疹、肝機能異常	宇和島市	マダニ
11月 16日	47	松山市	女	60歳代	発熱、刺し口、発疹、DIC、肝機能異常、腎機能異常	松山市	動物・蚊・昆虫等からの感染
11月 19日	47	宇和島	女	50歳代	発熱、刺し口、発疹、肝機能異常	宇和島市	マダニ
12月 1日	49	宇和島	女	70歳代	発熱、頭痛、刺し口、発疹、肝機能異常	宇和島市	マダニ
12月 3日	49	宇和島	男	70歳代	発熱、刺し口、発疹、DIC、肝機能異常、脳症、ショック	宇和島市	動物・蚊・昆虫等からの感染

日本紅斑熱 保健所別届出数の年推移



2003年以降届出された日本紅斑熱患者(39人)の内訳

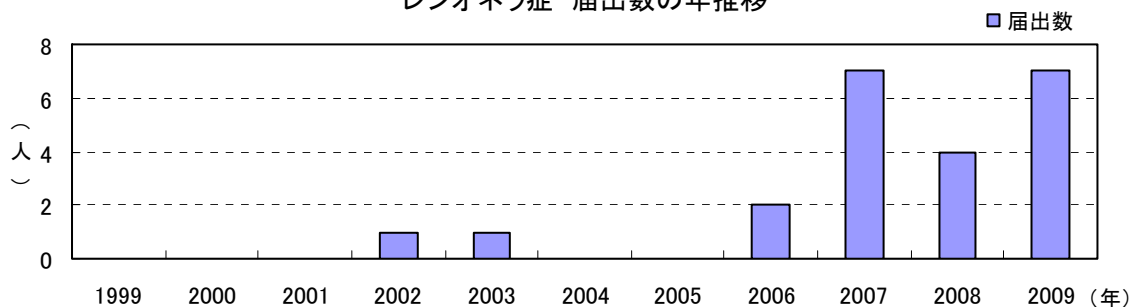


レジオネラ症

レジオネラ症は7人の届出があった。病型は全て肺炎型で、性別は男性6人、女性1人で、年齢は、50歳代1人、60歳代4人、70歳代2人であった。感染地域は全て県内で、感染経路は水系感染が5人、その他(不明を含む)が2人であった。水系感染例5人のうち3人は公衆浴場の利用歴があったが、当該施設とレジオネラ感染との関連性は認められなかった。診断方法は全て尿中の病原体抗原の検出によるものであった。

届出日	届出週	届出保健所	性別	年齢	病型	症状	感染地域	感染経路
1月 19日	4	松山市	男	50歳代	肺炎型	発熱、咳嗽、肺炎	県内	水系感染
2月 18日	8	西条	男	60歳代	肺炎型	発熱、肺炎	県内	水系感染
4月 2日	14	宇和島	女	70歳代	肺炎型	発熱、肺炎	県内	その他 (清掃業に従事)
7月 15日	29	西条	男	60歳代	肺炎型	発熱、咳嗽、肺炎、 食欲不振	県内	不明
11月 16日	47	松山	男	70歳代	肺炎型	呼吸不全	県内	水系感染
11月 25日	48	西条	男	60歳代	肺炎型	発熱、咳嗽、呼吸困難、 意識障害、肺炎、筋肉痛	県内	水系感染
12月 15日	51	西条	男	60歳代	肺炎型	発熱、咳嗽、呼吸困難、 肺炎	県内	水系感染

レジオネラ症 届出数の年推移



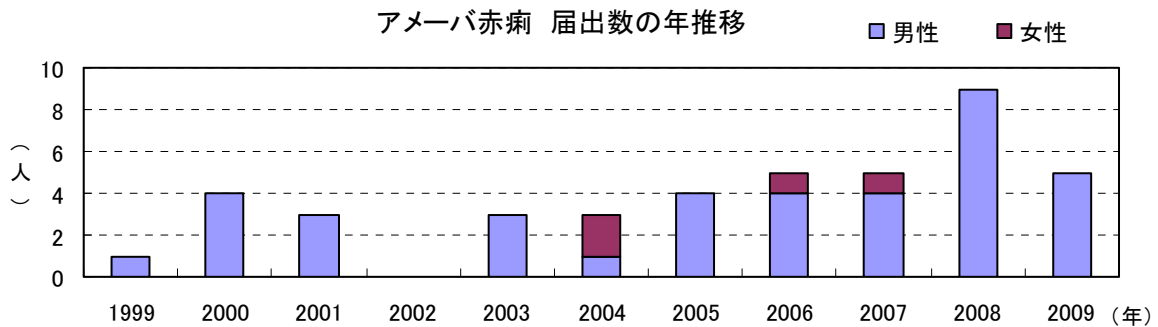
その他 37 疾患 (E 型肝炎、ウエストナイル熱(ウエストナイル脳炎を含む)、エキノコックス症、黄熱、オウム病、オムスク出血熱、回帰熱、キャサナル森林病、Q 熱、狂犬病、コクシジオイデス病、サル痘、腎症候性出血熱、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、炭疽、デング熱、東部ウマ脳炎、鳥インフルエンザ(H5N1 は除く)、ニパウイルス感染症、日本脳炎、ハンタウイルス肺症候群、B ウイルス病、鼻疽、ブルセラ症、ベネズエラウマ脳炎、ヘンドラウイルス感染症、発疹チフス、ボツリヌス症、マラリア、野兔病、ライム病、リッサウイルス感染症、リフトバレー熱、類鼻疽、レプトスピラ症、ロッキー山紅斑熱) の届出はなかった。

(5) 五類感染症

アメーバ赤痢

アメーバ赤痢は5人の届出があり、病型は腸管アメーバ症3人、腸管外アメーバ症2人であった。性別は全て男性で、年齢は30歳代2人、40歳代1人、50歳代2人であった。感染地域は全て国内(うち県内4人)で、感染経路は、経口感染1人、その他4人は不明であった。

届出日	届出週	届出保健所	性別	年齢	病型	症状	感染地域	感染経路
2月 13日	7	宇和島	男	50歳代	腸管アメーバ症	下痢、粘血便	国内	不明
4月 20日	17	松山市	男	40歳代	腸管アメーバ症	下痢、腹痛	国内(県内)	不明
5月 19日	21	松山市	男	30歳代	腸管外アメーバ症	発熱、右季肋部痛、肝腫大、肝膿瘍、胸膜炎	国内(県内)	経口感染
6月 16日	25	今治	男	30歳代	腸管外アメーバ症	発熱、肝腫大、肝膿瘍	国内(県内)	不明
12月 25日	52	松山市	男	50歳代	腸管アメーバ症	下痢、腹痛	国内(県内)	不明

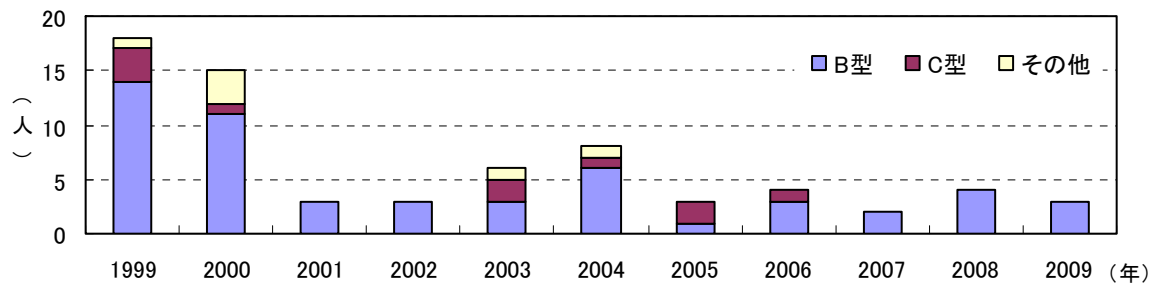


ウイルス性肝炎(E型肝炎及びA型肝炎を除く)

ウイルス性肝炎は3人の届出があり、病型は全てB型であった。性別は男性1人、女性2人で、年齢は20歳代2人、30歳代1人であった。感染地域は全て県内で、感染経路は不明であった。

届出日	届出週	届出保健所	性別	年齢	病型	症状	感染地域	感染経路
1月 16日	3	西条	女	30歳代	B型	全身倦怠感、肝機能異常	県内	不明
2月 10日	7	今治	女	20歳代	B型	肝機能異常、黄疸、食欲不振	県内	不明
4月 23日	17	松山	男	20歳代	B型	全身倦怠感、褐色尿、肝機能異常、黄疸	県内	不明

ウイルス性肝炎(E型肝炎及びA型肝炎を除く) 届出数の年推移

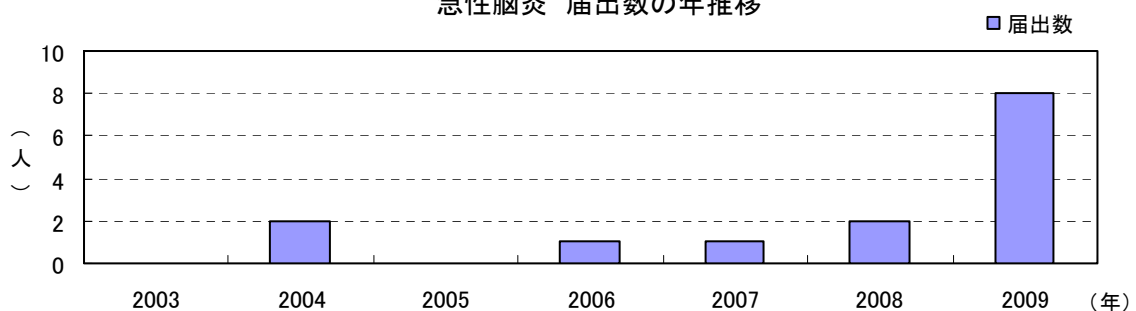


急性脳炎

急性脳炎は8人の届出があり、例年(0~2人)に比べ増加した。性別は男性5人、女性3人で、年齢は10歳未満4人、10歳代3人、70歳代1人であった。感染地域は全て県内で、70歳代の患者は日本紅斑熱、その他の7人は新型インフルエンザ(A/H1N1)の合併症としてそれぞれ脳症を発症しており、検査の結果、当該病原体が検出された。

届出日	届出週	届出保健所	性別	年齢	病原体	症状	感染地域	感染経路
10月 26日	44	松山市	男	10歳代	インフルエンザウイルス AH1pdm	発熱、意識障害	県内	飛沫・飛沫核感染
11月 13日	46	松山市	男	10歳未満	インフルエンザウイルス AH1pdm	発熱、痙攣、意識障害	県内	飛沫・飛沫核感染
11月 18日	47	松山市	男	10歳代	インフルエンザウイルス AH1pdm	発熱、頭痛、異常行動	県内	飛沫・飛沫核感染
11月 26日	48	松山	女	10歳代	インフルエンザウイルス AH1pdm	発熱、意識障害	県内	飛沫・飛沫核感染
11月 27日	48	松山	女	10歳未満	インフルエンザウイルス AH1pdm	発熱、意識障害	県内	飛沫・飛沫核感染
12月 1日	49	松山市	女	10歳未満	インフルエンザウイルス AH1pdm	発熱、痙攣、意識障害	県内	飛沫・飛沫核感染
12月 2日	49	宇和島	男	10歳未満	インフルエンザウイルス AH1pdm	発熱、痙攣、意識障害	県内	接触感染 (家族からの感染)
12月 16日	51	宇和島	男	70歳代	日本紅斑熱リケッチア	発熱、痙攣、意識障害、 髄液細胞数の増加	県内	動物・蚊・昆虫等からの感染 (農作業中のダニ咬傷)

急性脳炎 届出数の年推移



クロイツフェルト・ヤコブ病

クロイツフェルト・ヤコブ病は、50 歳代女性と 70 歳代男性の計 2 人の届出があった。病型はともに孤発性で、診断の確実度はほぼ確実例であった。

届出日	届出週	届出保健所	性別	年齢	病型(診断の確実度)	症状
8月 26日	35	松山市	女	50歳代	孤発性 (ほぼ確実)	進行性認知症、ミオクローヌス、錐体外路症状、無動性無言状態、筋強剛
12月 14日	51	松山	男	70歳代	孤発性 (ほぼ確実)	進行性認知症、ミオクローヌス、錐体路症状、錐体外路症状、小脳症状、無動性無言状態、記憶障害、精神・知能障害、異常感覚、痙性対麻痺、筋強剛、失行

劇症型溶血性レンサ球菌感染症

劇症型溶血性レンサ球菌感染症は、50 歳代男性 1 人の届出があった。感染地域は県内で、感染経路は不明であり、検出された病原体の血清群は A 群であった。

届出日	届出週	届出保健所	性別	年齢	病原体	症状	感染地域	感染経路
3月 30日	14	松山市	男	50歳代	A群	ショック、肝不全、腎不全、急性呼吸窮迫症候群、DIC、軟部組織炎、中枢神経症状、右上肢・右腋窩・右側胸部・右側腹部の壊死性筋膜炎	県内	不明

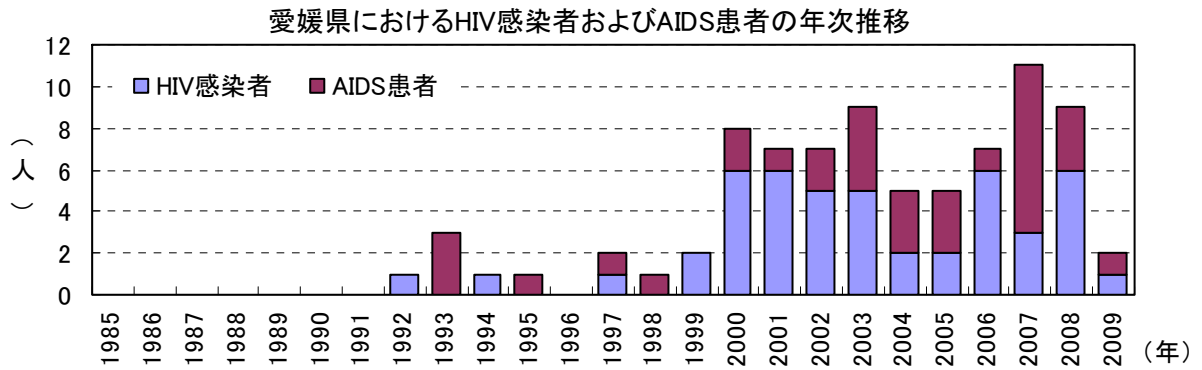
後天性免疫不全症候群

後天性免疫不全症候群は 40 歳代男性（無症状病原体保有者）と 70 歳代男性（AIDS）の計 2 人の届出があり、前年の 9 人から減少した。感染地域は国内 1 人、不明 1 人で、感染経路は同性間性的接触 1 人、不明 1 人であった。

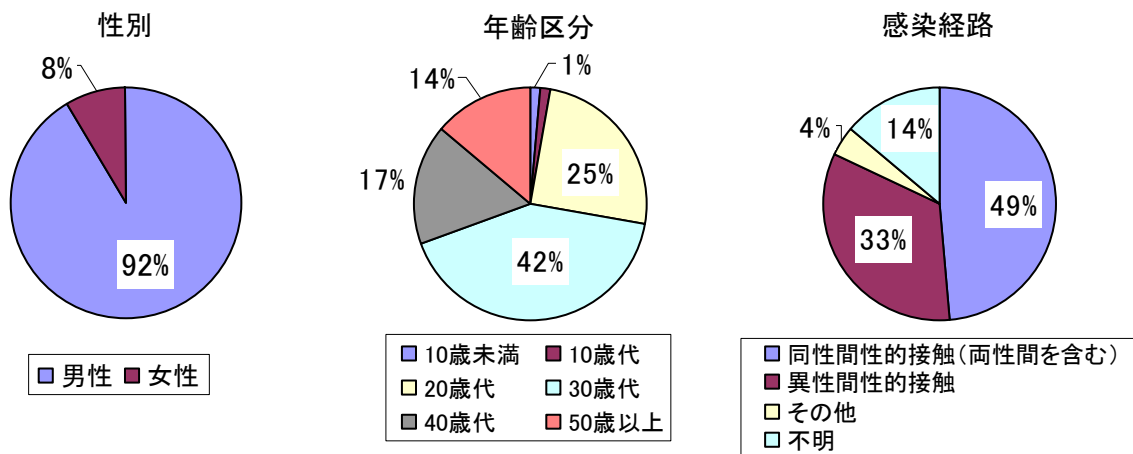
県内の HIV 感染者及び AIDS 患者数の年次推移をみると、1992 年に初めて届出されてから 1999 年までは毎年 1~2 人程度で推移していた。2000 年以降は年間 5~8 人と届出数のやや多い状態が続いており、2007 年は 11 人と最も多く、2008 年は 9 人であった。

1999 年 4 月 1 日以降、感染症法に基づいて届出された 72 人のうち、性別では男性が全体の 91.7%を、年齢区分別では 20~30 歳代が 66.7%を、感染経路別では同性間性的接触（両性間を含む）が 48.6%を占めており、県内でも全国の動向と同様に、男性の同性間性的接触による感染例が多い傾向にある。

届出日	届出週	届出保健所	性別	年齢	病型	感染地域	感染経路
3月 10日	11	西条	男	70歳代	AIDS	国内	同性間性的接触
4月 28日	18	松山市	男	40歳代	無症候性キャリア	不明	不明



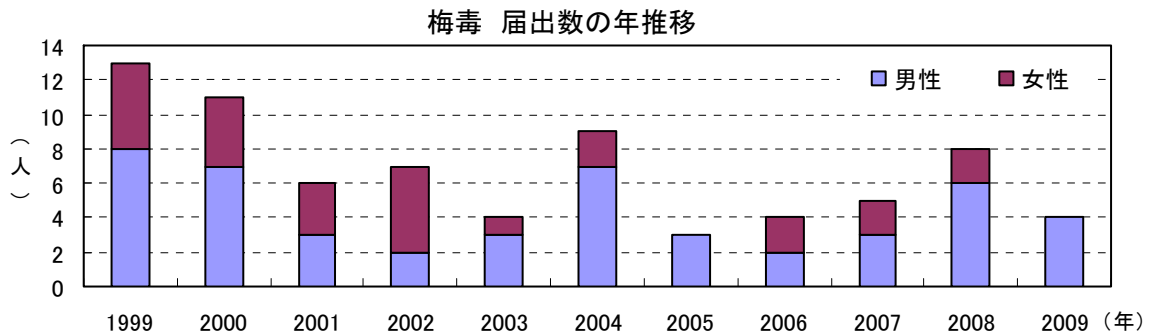
1999年4月以降 感染症法に基づいて届出された患者(72人)の内訳



梅毒

梅毒は4人の届出があり、病型は早期顕症梅毒(Ⅰ期)2人、晩期顕症梅毒1人、無症候性梅毒1人であった。全て男性で、年齢は20歳代1人、30歳代2人、50歳代1人であった。感染地域は全て国内(うち県内2人)で、感染経路は性的接触であった。

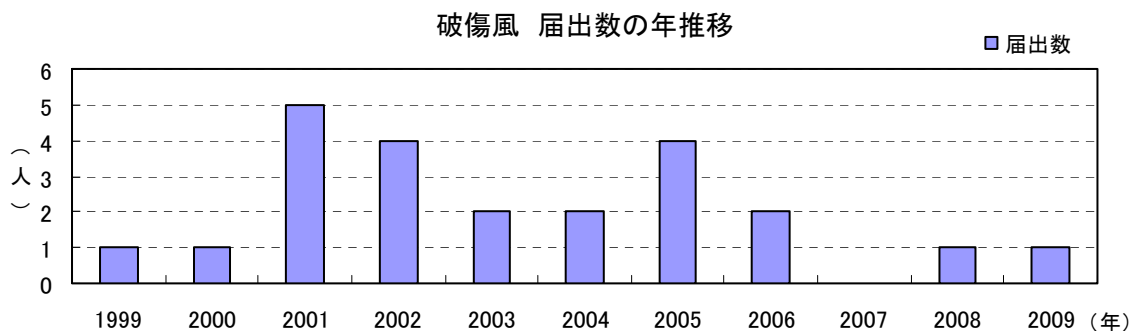
届出日	届出週	届出保健所	性別	年齢	病型	感染地域	感染経路
2月 20日	8	今治	男	50歳代	晩期顕症梅毒	国内	性的接触
3月 13日	11	松山	男	20歳代	早期顕症梅毒Ⅱ期	国内	性的接触 (異性間)
5月 22日	21	松山市	男	30歳代	無症候	国内 (県内)	性的接触 (異性間)
6月 3日	23	松山市	男	30歳代	早期顕症梅毒Ⅱ期	国内 (県内)	性的接触



破傷風

破傷風は、40歳代男性1人の届出があった。感染地域は県内で、創傷部位(左足指)からの感染であった。

届出日	届出週	届出保健所	性別	年齢	症状	感染地域	感染経路
9月 29日	40	松山市	男	40歳代	筋肉のこわばり、開口障害、嚥下障害、痙攣、強直性痙攣、呼吸困難(痙攣性)、反弓緊張	県内	創傷感染



麻疹

麻疹は6人の届出があり、前年の43人から大幅に減少した。また、届出は散発的で、年間を通じ流行は認められなかった。性別は男性3人、女性3人で、年齢は10歳未満4人(うち1歳未満1人)、40歳代1人、50歳代1人であった。病型は検査診断例1人、臨床診断例2人、修飾麻疹(検査診断例)3人で、検査診断4例における診断方法は、血清IgM抗体の検出によるものであった。感染地域は全て県内で、感染経路は飛沫・飛沫核感染2人、不明4人であった。予防接種歴では、1回目の接種ありが2人、接種なしが3人(1歳未満1人を含む)、不明が1人であった。

世界保健機関(WHO)では、日本を含む西太平洋地域において、2012年までに麻疹を排除するという目標を定めている。日本でも、2012年の麻疹排除(Elimination)を目標に、2007年8月厚生労働省において「麻疹排除計画」が策定された。愛媛県においても、麻疹排除に向けて、麻疹対策の強化と推進が開始されている。

届出日	届出週	届出保健所	性別	年齢	病型	感染地域	感染経路	ワクチン接種歴
1月 9日	2	松山	女	50歳代	麻疹 (検査診断例)	県内	不明	無
4月 1日	14	松山市	男	10歳未満 (幼児)	修飾麻疹 (検査診断例)	県内	不明	有(1回)
4月 27日	18	西条	男	10歳未満 (幼児)	麻疹 (臨床診断例)	県内	飛沫・飛沫核感染	無
4月 28日	18	宇和島	男	10歳未満 (幼児)	修飾麻疹 (検査診断例)	県内	飛沫・飛沫核感染	有(1回)
7月 13日	29	松山市	女	10歳未満 (乳児)	麻疹 (臨床診断例)	県内	不明	無
9月 4日	36	西条	女	40歳代	修飾麻疹 (検査診断例)	県内	不明	不明

その他7疾患(クリプトスポリジウム症、ジアルジア症、髄膜炎菌性髄膜炎、先天性風しん症候群、バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症、バンコマイシン耐性腸球菌感染症、風しん)の届出はなかった。

(6) 新型インフルエンザ等感染症

新型インフルエンザ(A/H1N1)

2009年4月28日、新型インフルエンザ(A/H1N1)(発生当初は、豚インフルエンザH1N1)が、感染症法に規定する新型インフルエンザ等感染症に位置づけられ、全数把握対象疾患として調査が開始された。全国的な届出数の増加に伴い、7月24日からは集団発生に関連した患者、疑似症患者のみが届出の対象となった(クラスターサーベイランス)。また、8月25日以降は、新型インフルエンザ(A/H1N1)に限り届出が不要となり、患者の動向はインフルエンザ定点からの患者報告により把握することとなった。

4月28日から7月23日までに、県内での届出は12人(患者のみ)であった。性別は、男性6人、女性6人で、年齢は、10歳代7人、20歳代1人、30歳代4人であった。感染地域は、国内が9人(2人は職場内での感染、7人は修学旅行での感染)で、海外(オーストラリア)が3人であった。

7月24日以降のクラスターサーベイランスでは、8月24日までに、38件のクラスターから患者59人、疑似症患者259人の計318人の届出があった。性別は、男性162人、女性156人で、年齢は、10歳未満62人、10歳代200人、20歳代27人、30歳代13人、40歳代9人、50歳代5人、60歳代1人、70歳代1人で、10歳代が全体の62.9%を占めた(年齢の中央値15歳)。把握されたクラスター38件の内訳は、学校24件(小学校3、中学校6、高等学校12、大学2、専門学校1(学童保育、部活動含む))、保育施設4件、福祉施設2件、医療機関2件、スポーツ団体(大会)4件、事業所2件であった。

その他の新型インフルエンザおよび再興型インフルエンザの届出はなかった。

表 2-1-1 全数把握対象疾患発生状況(年推移)

感染症 類 型	疾病名	年	愛媛県						全国					
			2009	2008	2007	2006	2005	2004	2009	2008	2007	2006	2005	2004
一類	エボラ出血熱													
	クリミア・コンゴ出血熱													
	痘そう													
	南米出血熱 ^{*1}				-	-	-					-	-	-
	ペスト													
	マールブルグ病													
二類	ラッサ熱													
	急性灰白髄炎													
	結核 ¹	280	243	267	-	-	-	26932	28459	21946	-	-	-	-
	ジフテリア													
三類	重症急性呼吸器症候群(SARS-CoVに限る)													
	鳥インフルエンザ(H5N1)													
	コレラ							16	45	13	45	56	86	
	細菌性赤痢	2	2	3	6		3	180	320	452	490	553	594	
	腸管出血性大腸菌感染症	68	28	26	16	24	98	3886	4321	4617	3922	3589	3715	
四類	腸チフス				2			29	57	47	72	50	67	
	パラチフス							27	27	22	26	20	88	
	E型肝炎							56	44	56	71	42	37	
	ウエストナイル熱(ウエストナイル脳炎を含む)												1	
	A型肝炎	1		1	4		2	115	169	157	320	170	139	
	エキノコックス症							26	23	25	20	20	26	
	黄熱													
	オウム病			1		1	1	21	9	29	22	34	40	
	オムスク出血熱 ^{*1}				-	-	-					-	-	
	回帰熱													
	キャサスル森林病 ^{*1}				-	-	-					-	-	
	Q熱							2	3	7	2	8	7	
	狂犬病											2		
	コクシジオイデス症							2	2	3	2	5	5	
	サル痘													
	腎症候性出血熱													
	西部ウマ脳炎 ^{*1}				-	-	-					-	-	
	ダニ媒介脳炎 ^{*1}				-	-	-					-	-	
	炭疽													
	つつが虫病	1			2			465	442	382	417	345	313	
	デング熱							93	104	89	58	74	49	
	東部ウマ脳炎 ^{*1}				-	-	-					-	-	
	鳥インフルエンザ(H5N1を除く)													
	ニバウイルス感染症													
	日本紅斑熱	10	5	4	8	4	6	129	135	98	49	62	66	
	日本脳炎							3	3	10	7	7	5	
	ハンタウイルス肺症候群													
	Bウイルス病													
	鼻疽 ^{*1}													
	ブルセラ症							2	4	1	5	2		
	ベネズエラウマ脳炎 ^{*1}				-	-	-					-	-	
	ヘンドラウイルス感染症 ^{*1}				-	-	-					-	-	
	発疹チフス													
	ボツリヌス症								2	3	2	3		
	マラリア					2	1	56	56	52	62	67	75	
	野兔病								5					
	ライム病							9	5	11	13	8	5	
	リッサウイルス感染症													
	リフトバレー熱 ^{*1}				-	-	-					-	-	
	類鼻疽 ^{*1}				-	-	-					-	-	
レジオネラ症	7	4	7	2			712	892	668	518	281	161		
レプトスピラ症						1	16	43	35	24	17	18		
ロッキー山紅斑熱 ^{*1}				-	-	-					-	-		
五類	アメーバ赤痢	5	9	5	5	4	3	783	871	801	752	698	610	
	ウイルス性肝炎(E型肝炎、A型肝炎を除く)	3	4	2	4	3	8	220	238	237	282	276	293	
	急性脳炎	8	2	1	1		2	526	192	228	167	188	166	
	クリプトスポリジウム症				1			17	10	6	18	12	92	
	クロイツフェルト・ヤコブ病	2	2	6	3	3	2	141	151	157	178	152	176	
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1	1	1				105	104	95	106	60	52	
	後天性免疫不全症候群	2	9	11	7	5	5	1449	1565	1493	1348	1203	1162	
	ジアルジア症							73	73	53	86	86	94	
	髄膜炎菌性髄膜炎							10	10	17	14	10	21	
	先天性風しん症候群							2				2	10	
	梅毒	4	8	5	4	3	9	692	827	719	637	543	533	
	破傷風	1	1		2	4	2	113	123	89	117	115	101	
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症													
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症							116	80	84	83	69	58	
	風しん ^{*2}		1	-	-	-	-	148	293	-	-	-	-	
	麻しん ^{*2}	6	43	-	-	-	-	739	11012	-	-	-	-	
	新型インフルエンザ等	新型インフルエンザ(A/H1N1)	330						12639					
		新型インフルエンザ ^{*3}												
再興型インフルエンザ ^{*3}														
	計	731	362	340	67	54	145	50550	50721	32702	9937	8829	8863	

注1:(*)の疾患は2007年4月1日から、(*)の疾患は2008年1月1日から、(*)の疾患は2008年5月12日からの数値である。

注2:全国の2009年の報告数は概数である。

注3:2007年4月1日からの法改正に伴い、疾患の追加及び並び順を変更している。

注4:急性脳炎はウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介性脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。

注5:二類感染症 鳥インフルエンザ(H5N1)の報告数は、2006年6月12日から2008年5月11日までは指定感染症 インフルエンザ(H5N1)として報告された数値である。

注6:四類感染症 鳥インフルエンザ(H5N1を除く)の報告数は、2008年5月12日以前は鳥インフルエンザとして報告された数値である。

注7:新型インフルエンザ(A/H1N1)は、2009年4月28日に指定。4月28日から7月23日までは全数報告、7月24日から8月24日は集団発生に関連した報告数(疑似症を含む)である。なお、8月25日以降は、患者の届出が不要となったため、未集計である。

表 2-1-2 2009年全数把握対象疾患発生状況(月別)

平成21年1月1日～平成21年12月31日

感染症類型	疾病名	月												
		計	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
一類	エボラ出血熱													
	クリミア・コンゴ出血熱													
	痘そう													
	南米出血熱													
	ペスト													
	マールブルグ病													
二類	ラッサ熱													
	急性灰白髄炎													
	結核	280	12	23	22	35	19	31	36	17	18	23	18	26
	ジフテリア													
	重症急性呼吸器症候群(SARS-CoVに限る)													
三類	鳥インフルエンザ(H5N1)													
	コレラ													
	細菌性赤痢	2									1	1		
	腸管出血性大腸菌感染症	68		1			1	47	7	5	3	3	1	
	腸チフス													
四類	バラチフス													
	E型肝炎													
	ウエストナイル熱(ウエストナイル脳炎を含む)													
	A型肝炎	1				1								
	エキノコックス症													
	黄熱													
	オウム病													
	オムスク出血熱													
	回帰熱													
	キャサスル森林病													
	Q熱													
	狂犬病													
	コクシジオイデス症													
	サル痘													
	腎症候性出血熱													
	西部ウマ脳炎													
	ダニ媒介脳炎													
	炭疽													
	つつが虫病	1												1
	デング熱													
	東部ウマ脳炎													
	鳥インフルエンザ(H5N1は除く)													
	ニバウイルス感染症													
	日本紅斑熱	10					1			1		1	5	2
	日本脳炎													
	ハンタウイルス肺症候群													
	Bウイルス病													
	鼻疽													
	ブルセラ症													
	ベネズエラウマ脳炎													
	ヘンドラウイルス感染症													
	発疹チフス													
	ボツリヌス症													
	マラリア													
野兔病														
ライム病														
リッサウイルス感染症														
リフトバレー熱														
類鼻疽														
レジオネラ症	7	1	1		1				1			2	1	
レプトスピラ症														
ロッキー山紅斑熱														
五類	アメーバ赤痢	5		1		1	1	1						1
	ウイルス性肝炎(E型肝炎、A型肝炎を除く)	3	1	1		1								
	急性脳炎	8										1	4	3
	クリプトスポリジウム症													
	クロイツフェルト・ヤコブ病	2								1				1
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1			1									
	後天性免疫不全症候群	2			1	1								
	ジアルジア症													
	髄膜炎菌性髄膜炎													
	先天性風しん症候群													
	梅毒	4		1	1		1	1						
	破傷風	1									1			
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症													
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症													
	風しん													
麻しん	6	1			3			1		1				
新型インフルエンザ等	新型インフルエンザ(A/H1N1)	330	-	-	-			5	36	289	-	-	-	
	新型インフルエンザ													
	再興型インフルエンザ													
	計	731	15	28	25	43	23	85	81	313	24	29	30	35

注1:2007年4月1日からの法改正に伴い、疾患の追加及び並び順を変更している。
 注2:急性脳炎はウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。
 注3:新型インフルエンザ(A/H1N1)は、2009年4月28日に指定。4月28日から7月23日までは全数報告、7月24日から8月24日は集団発生に関連した報告数(疑似症を含む)である。なお、8月25日以降は、患者の届出が不要となったため、未集計である。

表 2-1-3 2009年全数把握対象疾患発生状況(保健所別)

平成21年1月1日～平成21年12月31日

感染症類型	疾病名	保健所							
		計	四国中央	西条	今治	松山市	松山	八幡浜	宇和島
一類	エボラ出血熱								
	クリミア・コンゴ出血熱								
	痘そう								
	南米出血熱								
	ペスト								
	マールブルグ病								
二類	ラッサ熱								
	急性灰白髄炎								
	結核	280	9	34	19	105	32	45	36
	ジフテリア								
	重症急性呼吸器症候群(SARS-CoVに限る)								
三類	鳥インフルエンザ(H5N1)								
	コレラ								
	細菌性赤痢	2			2				
	腸管出血性大腸菌感染症	68		50	3	12	2	1	
四類	腸チフス								
	パラチフス								
	E型肝炎								
	ウエストナイル熱(ウエストナイル脳炎を含む)								
	A型肝炎	1				1			
	エキノコックス症								
	黄熱								
	オウム病								
	オムスク出血熱								
	回帰熱								
	キャサヌル森林病								
	Q熱								
	狂犬病								
	コクシジオイデス症								
	サル痘								
	腎症候性出血熱								
	西部ウマ脳炎								
	ダニ媒介脳炎								
	炭疽								
	つつが虫病	1					1		
	デング熱								
	東部ウマ脳炎								
	鳥インフルエンザ(H5N1は除く)								
	ニバウイルス感染症								
	日本紅斑熱	10					2		8
	日本脳炎								
	ハンタウイルス肺症候群								
	Bウイルス病								
	鼻疽								
	ブルセラ症								
	ベネズエラウマ脳炎								
	ヘンドラウイルス感染症								
	発疹チフス								
	ボツリヌス症								
マラリア									
野兎病									
ライム病									
リッサウイルス感染症									
リフトバレー熱									
類鼻疽									
レジオネラ症	7		4			1	1	1	
レプトスピラ症									
ロッキー山紅斑熱									
五類	アメーバ赤痢	5			1	3			1
	ウイルス性肝炎(E型肝炎、A型肝炎を除く)	3		1	1		1		
	急性脳炎	8					4	2	2
	クリプトスポリジウム症								
	クロイツフェルト・ヤコブ病	2					1	1	
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1					1		
	後天性免疫不全症候群	2		1			1		
	ジアルジア症								
	髄膜炎菌性髄膜炎								
	先天性風しん症候群								
	梅毒	4			1		2	1	
	破傷風	1					1		
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症								
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症								
	風しん								
麻しん	6		2			2	1	1	
新型インフルエンザ等	新型インフルエンザ(A/H1N1)	330	8	44	49	33	9	134	53
	新型インフルエンザ								
	再興型インフルエンザ								
	計	731	17	136	76	170	50	180	102

注1:2007年4月1日からの法改正に伴い、疾患の追加及び並び順を変更している。

注2:急性脳炎はウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介性脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。

注3:新型インフルエンザ(A/H1N1)は、2009年4月28日に指定。4月28日から7月23日までは全数報告、7月24日から8月24日は集団発生に関連した報告数(疑似症を含む)である。なお、8月25日以降は、患者の届出が不要となったため、未集計である。

表 2-1-4 2009年全数把握対象疾患発生状況(年齢別)

平成21年1月1日～平成21年12月31日

感染症類型	疾病名	年齢区分																	
		計	0歳	1歳	5歳	10歳	15歳	20歳	25歳	30歳	35歳	40歳	45歳	50歳	55歳	60歳	65歳	70歳以上	
一類	エボラ出血熱																		
	クリミア・コンゴ出血熱																		
	痘そう																		
	南米出血熱																		
	ペスト																		
二類	マールブルグ病																		
	ラッサ熱																		
	急性灰白髄炎																		
	結核	280	6	3	3		1	6	13	8	9	9	14	13	16	22	16	141	
	ジフテリア																		
三類	重症急性呼吸器症候群(SARS-CoVに限る)																		
	鳥インフルエンザ(H5N1)																		
	コレラ																		
	細菌性赤痢	2							1				1						
	腸管出血性大腸菌感染症	68		33	3	3	1	1	5	14	2	1			1	1	1	2	
四類	腸チフス																		
	パラチフス																		
	E型肝炎																		
	ウエストナイル熱(ウエストナイル脳炎を含む)																		
	A型肝炎	1		1															
	エキノコックス症																		
	黄熱																		
	オウム病																		
	オムスク出血熱																		
	回帰熱																		
	キャサヌル森林病																		
	Q熱																		
	狂犬病																		
	コクシジオイデス症																		
	サル痘																		
	腎症候性出血熱																		
	西部ウマ脳炎																		
	ダニ媒介脳炎																		
	炭疽																		
	つつが虫病	1																	1
	デング熱																		
	東部ウマ脳炎																		
	鳥インフルエンザ(H5N1は除く)																		
	ニパウイルス感染症																		
	日本紅斑熱	10								1					3	1	1	4	
	日本脳炎																		
	ハンタウイルス肺症候群																		
	Bウイルス病																		
	鼻疽																		
	ブルセラ症																		
	ベネズエラウマ脳炎																		
	ヘンドラウイルス感染症																		
	発疹チフス																		
	ポツリヌス症																		
	マラリア																		
	野兔病																		
	ライム病																		
	リッサウイルス感染症																		
	リフトバレー熱																		
	類鼻疽																		
	レジオネラ症	7													1		3	1	2
	レプトスピラ症																		
	ロッキー山紅斑熱																		
	五類	アメーバ赤痢	5									2		1	1	1			
		ウイルス性肝炎(E型肝炎、A型肝炎を除く)	3						1	1		1							
急性脳炎		8		1	3	3												1	
クリプトスポリジウム症																			
クロイツフェルト・ヤコブ病		2													1			1	
劇症型溶血性レンサ球菌感染症		1													1				
後天性免疫不全症候群		2											1					1	
ビアルジア症																			
髄膜炎菌性髄膜炎																			
先天性風しん症候群																			
梅毒		4								1	1	1				1			
破傷風		1											1						
バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症																			
バンコマイシン耐性腸球菌感染症																			
風しん																			
麻しん	6	1	3									1		1					
新型インフルエンザ等	新型インフルエンザ(A/H1N1)	330		9	53	66	141	24	4	9	8	8	1	3	2	1		1	
	新型インフルエンザ																		
	再興型インフルエンザ																		
	計	731	7	50	62	72	143	32	26	32	23	19	19	18	27	28	19	154	

注1:2007年4月1日からの法改正に伴い、疾患の追加及び並び順を変更している。

注3:急性脳炎はウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介性脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。

注3:新型インフルエンザ(A/H1N1)は、2009年4月28日に指定。4月28日から7月23日までは全数報告、7月24日から8月24日は集団発生に関連した報告数(疑似症を含む)である。なお、8月25日以降は、患者の届出が不要となったため、未集計である。